

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成26年12月25日 (2014.12.25)

【公開番号】特開2013-102961(P2013-102961A)

【公開日】平成25年5月30日 (2013.5.30)

【年通号数】公開・登録公報2013-027

【出願番号】特願2011-248840(P2011-248840)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 2 B

【手続補正書】

【提出日】平成26年11月11日 (2014.11.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技媒体を用いた所定の遊技を実施可能であり、所定の払出条件が成立したことにともづいて遊技媒体を払い出す遊技機に関する情報を管理する遊技用管理装置であって、

前記払出条件が成立したことに応じて前記遊技機から出力される情報であって、該払出条件が成立することにより払い出す遊技媒体数を特定可能な払出条件成立情報と、前記払出条件が成立したことによる遊技媒体数が払い出されたことに応じて前記遊技機から出力される情報であって、該払い出された遊技媒体数を特定可能な払出済情報と、を入力するための情報入力手段と、

所定期間における前記払出条件成立情報から特定される遊技媒体数の合計と該所定期間における前記払出済情報から特定される遊技媒体数の合計との差数を算出し、該算出した差数が、所定の閾値以上であるか否かを、所定のタイミングにて判定する判定手段と、

前記判定手段により、前記差数が所定の閾値以上であると判定されたことを条件に所定の報知を行う報知手段と、

を備える

ことを特徴とする遊技用管理装置。

【請求項 2】

遊技媒体を用いた所定の遊技を実施可能であり、所定の払出条件が成立したことにともづいて遊技媒体を払い出す遊技機に関する情報を管理する遊技用管理装置であって、

前記払出条件が成立したことに応じて前記遊技機から出力される情報であって、該払出条件が成立することにより払い出す遊技媒体数を特定可能な払出条件成立情報と、前記払出条件が成立したことによる遊技媒体数が払い出されたことに応じて前記遊技機から出力される情報であって、該払い出された遊技媒体数を特定可能な払出済情報と、を入力するための情報入力手段と、

前記遊技機の遊技状態を判別する遊技状態判別手段と、

前記遊技状態判別手段により判別した遊技状態が所定の遊技状態であることに応じて、所定期間における前記払出条件成立情報から特定される遊技媒体数の合計と該所定期間における前記払出済情報から特定される遊技媒体数の合計との差数の算出を開始し、該算出した差数が、所定の閾値以上であるか否かを、前記遊技状態判別手段により判別した該所定の遊技状態に基づく所定のタイミングにて判定する判定手段と、

前記判定手段により、前記差数が所定の閾値以上であると判定されたことを条件に所定の報知を行う報知手段と、  
を備える

ことを特徴とする遊技用管理装置。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

前記課題を解決するために、本発明の請求項１に記載の遊技用管理装置は、

遊技媒体（パチンコ玉）を用いた所定の遊技を実施可能であり、所定の払出条件が成立したこと（入賞）にもとづいて遊技媒体を払い出す遊技機（パチンコ機２）に関する情報を管理する遊技用管理装置（台端末５，ホールコンピュータ１４０）であって、

前記払出条件が成立したことに応じて前記遊技機から出力される情報であって、該払出条件が成立することにより払い出す遊技媒体数を特定可能な払出条件成立情報（賞球信号１）と、前記払出条件が成立したことによる遊技媒体数が払い出されたことに応じて前記遊技機から出力される情報であって、該払い出された遊技媒体数を特定可能な払出済情報（賞球信号２）と、を入力するための情報入力手段（例えば、台端末５における信号入力部５８１e，５８１f）と、

所定期間における前記払出条件成立情報から特定される遊技媒体数の合計（例えば、入賞総賞球数）と該所定期間における前記払出済情報から特定される遊技媒体数の合計（例えば、払出総賞球数）との差数（賞球差数）を算出し、該算出した差数が、所定の閾値（異常判定閾値）以上であるか否かを、所定のタイミング（例えば、最後の賞球信号２の入力があった時点から所定期間が経過した判定タイミング）にて判定する判定手段（例えば、制御マイコン（ＭＰＵ）５７９がステップＳｔ１３を実施する部分）と、

前記判定手段により、前記差数が所定の閾値以上であると判定されたことを条件に所定の報知を行う報知手段（ホールコンピュータ１４０の表示装置１４７が図１４の警告画面を表示する部分）と、

を備える

ことを特徴としている。

この特徴によれば、払出条件成立情報から特定される遊技媒体数の合計と払出済情報から特定される遊技媒体数の合計との差数が所定の閾値以上であるか否かの判定が、所定のタイミングにおいてのみ実施されるので、差数が所定の閾値以上であると頻繁に判定されて、不正や不具合の把握精度が低下してしまうことを回避できるとともに、これらの判定を常時実施する場合に比較して該判定の処理負荷を低減することができる。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００８】

本発明の請求項２に記載の遊技用管理装置は、請求項１に記載の遊技用管理装置であって、

遊技媒体（パチンコ玉）を用いた所定の遊技を実施可能であり、所定の払出条件が成立したこと（入賞）にもとづいて遊技媒体を払い出す遊技機（パチンコ機２）に関する情報を管理する遊技用管理装置（台端末５，ホールコンピュータ１４０）であって、

前記払出条件が成立したことに応じて前記遊技機から出力される情報であって、該払出条件が成立することにより払い出す遊技媒体数を特定可能な払出条件成立情報（賞球信号１）と、前記払出条件が成立したことによる遊技媒体数が払い出されたことに応じて前記

遊技機から出力される情報であって、該払い出された遊技媒体数を特定可能な払出済情報（賞球信号２）と、を入力するための情報入力手段（例えば、台端末５における信号入力部５８１e、５８１f）と、

前記遊技機の遊技状態を判別する遊技状態判別手段（例えば、制御マイコン（ＭＰＵ）５７９が、大当り信号１、大当り信号２、時短信号の入力状態からパチンコ機２の遊技状態を特定する部分）と、

前記遊技状態判別手段により判別した遊技状態が所定の遊技状態（例えば、大当り状態、時短状態）であることに応じて、所定期間における前記払出条件成立情報から特定される遊技媒体数の合計と該所定期間における前記払出済情報から特定される遊技媒体数の合計との差数の算出を開始し（制御マイコン（ＭＰＵ）５７９が、大当り状態または時短状態となったことに応じて、賞球差数カウンタに賞球信号１の入力により１０を加算するとともに賞球信号２の入力により賞球差数カウンタから１０を減算を実施する部分）、該算出した差数（賞球差数カウンタのカウント値）が、所定の閾値（異常判定閾値）以上であるか否かを、前記遊技状態判別手段により判別した該所定の遊技状態に基づく所定のタイミング（例えば、大当りが終了から３０秒後若しくは時短状態終了から１０秒後）にて判定する判定手段（例えば、制御マイコン（ＭＰＵ）５７９がステップＳ１２を実施する部分）と、

前記判定手段により、前記差数が所定の閾値以上であると判定されたことを条件に所定の報知を行う報知手段（ホールコンピュータ１４０の表示装置１４７が図１４の警告画面を表示する部分）と、

を備える

ことを特徴としている。

この特徴によれば、払出条件成立情報から特定される遊技媒体数の合計と払出済情報から特定される遊技媒体数の合計との差数が所定の閾値以上であるか否かの判定が、遊技機における所定の遊技状態に基づく所定のタイミングにおいてのみ実施されるので、差数が所定の閾値以上であると頻繁に判定されて、不正や不具合の把握精度が低下してしまうことを回避できるとともに、これらの判定を常時実施する場合に比較して該判定の処理負荷を低減することができる。